自由闊達な学風でノーベル賞学者を輩出 世界レベルの基幹総合大学として 知の梁山泊で勇気ある知識人を育成する

1939年に発足した名古屋大学は、旧帝国大学として最も歴史が新しく、その自由闊達な学風の下、世界レベルの研究大学として発展してきました。名古屋大学ゆかりの6人のノーベル賞受賞者の研究は、レガシーとして今も継承されています。2020年度には岐阜大学と東海国立大学機構を設立し、研究・教育にさらなる厚みを生み出しています。

今春には「Nextビジョン2027」を策定し、世界の卓越した研究者が集う「知の梁山泊」の形成を推進。また、アントレプレナーシップ教育や、世界の大学とのパートナーシップ関係の強化に力を注いでいます。こうして“勇気ある知識人”として世界を変革するイノベーションを創出する人材育成を目指しています。

すぎやまなおし
杉山 直総長

1984年早稲田大学理工学部物理学科卒業。89年広島大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程修了。専門分野は理論天文学。名古屋大学教授、東京大学数物連携宇宙研究機構主任研究員（兼任）、名古屋大学理事・副総長などを経て22年より現職。東海国立大学機構大学総括理事・副機構長。

東海国立大学機構
名古屋大学

〒464-8601　愛知県名古屋市千種区不老町　教育推進部入試課　TEL 052-789-5765　https://www.nagoya-u.ac.jp/

多様な人と知が集う 東海機構プラットフォーム

名古屋大学は、岐阜大学とともに2020年度に東海国立大学機構を設立し、両大学の教育改革の司令塔としての組織「アカデミック・セントラル」を設置しました。また、今春から「東海機構プラットフォーム（仮称）」の建設に着手しました。最先端の教育を進める機構・大学の広場として、すべての機能につなぎ、地域や国内、世界にひらくショーケースの役割を担う施設で、2025年に完成予定です。地下鉄名古屋大学駅から名古屋大学中央図書館までの広大なスペース（約7000㎡）に、「面白さと未来」をテーマとした、学生、教職員だけではない多様な人々が交流し集う場となります。

杉山直総長は、「大学・地域・企業など多様な人と知が集い、新たな価値を創造する場の形成を目指しています」と話します。

東海国立大学機構では、2021年に「糖鎖生命コア研究所」を開設しました。糖鎖の研究は、世界的にもまだ進んでいないのが現状ですが、名古屋大学と岐阜大学という二つの大学を束ねることで、国際的にも注目される拠点として注目されるようになり、文部科学省の『共同利用・共同研究拠点』・『大規模学術フロンティア促進事業』として認定されました。

さらに、東海国立大学機構として、デジタルユニバーシティの推進にも力を入れています。これは、学外の方にも知のプラットフォームを開放し、機構内外100万人以上が集う「デジタルユニバーシティ」を構築しようというもので、「大学、そして地域を丸ごとデジタル化してしまう」（杉山総長）という試みです。

世界トップ研究者が集う「知の梁山泊」を整備

名古屋大学は今春「名古屋大学Next ビジョン2027」を策定し、世界屈指の研究大学としてさらなる発展を目指しています。その核となるのが「LYKEION（リュケイオン）プログラム」です。2026年度を目途に約1万4000㎡のアンダーワンルーフ型の大規模研究棟を建設し、そこに世界トップレベルの研究者が集い、新しい学術分野を切り開く「知の梁山泊」にしようというものです。杉山総長は「世界から卓越した研究者を招へいして、魅力的な研究環境のもとで新分野の創成につなげたい。世界中の研究者が訪れたくなる卓越研究拠点群（World-class Critical Mass）の形成を実現するとともに、若手研究者の育成にも力を入れます」と話します。

その一環として「卓越教授制度」を創設しました。外部から招請する場合は45歳未満に限るなど、若手を重視しています。「名古屋大学に野心溢れる人々が集まり、お互い刺激しながら新しい研究の芽をつくっていく。まさに梁山泊のイメージです。本学の自由闊達な雰囲気の中で、勇気ある知識人[1]として世界を変えるイノベーションの創出を実現していきたい」と杉山総長。

研究面では、名古屋大学にゆかりのある6人のノーベル賞受賞者を輩出していることが特筆されます。化学賞を受賞した野依良治氏と下村脩氏に代表される化学と生命科学を発展させ、融合しているのが「トランスフォーマティブ生命分子研究所」です。物理学賞を受賞した益川敏英氏と小林誠氏の研究をさらに進化させる「素粒子宇宙起源研究所」、赤﨑勇氏とともに世界初の青色LEDを実現し物理学賞を受賞した天野浩氏がセンター長を務める「未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター」といった研究施設も設置されており、ノーベル賞が記念碑ではなくレガシーとして継承されているのです。

世界基準の学びを実践 アントレプレナーシップ教育も充実

名古屋大学では「全学教育科目[2]」による基礎教育・教養教育を実践しています。その実施組織である教養教育院では、普遍性と先進性の両立をめざして2022年度にカリキュラムを改善し、世界基準に準拠した新しい学びを実践し始めました。例えば、文系・理系問わず重要な基本スキルとなってきた数理・データサイエンスの新しい教育プログラムを構築したのをはじめ、先端的な学術研究と国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成のために、世界に通じる学術英語（アカデミック・イングリッシュ）教育を行っています。

一方、博士課程教育推進機構では大学院の博士前期課程、博士後期課程の5年一貫教育を行う卓越大学院プログラムなどと連携し、若手人材育成のための支援を進めています。

一方、名古屋大学は産業集積地である東海地域を代表する大学として、産業界に多くの人材を送り出しており、アントレプレナーシップ教育にも力を入れています。その中心となっているのがディープテック・シリアルイノベーションセンターです。学部1年生から博士人材までシームレスに起業教育を実践し、大学のもつ高度技術シーズの社会実装を加速するような人材を育成することを目的としています。

こうした取組の一環として、名古屋大学は今年7月1日、シンガポールのスタートアップ支援施設「BLOCK71」にシンガポールオフィス準備室を開設しました。BLOCK71は、シンガポール国立大学（NUS）の起業部門であるNUSエンタープライズによって設置された施設です。大企業や政府機関との協力的かつ戦略的パートナーシップを通じて、NUS内外でのイノベーションと起業家精神を推進することを目的として作られたもので、名古屋大学が日本で最初のパートナー大学となりました。

ニューノーマルを視野に アジアのハブとして世界へ

名古屋大学では、ニューノーマル時代の国際展開を視野に、2022年4月に「グローバル・マルチキャンパス推進機構」を設置しました。名古屋大学の強みであるアジア展開を活かし、「アジアのハブ」としてアジア大洋州・北米・ヨーロッパの3極との有機的連携により積極的に国際展開をしようというものです。具体的には「戦略的パートナー大学[3]」との相互拠点化による「グローバル・マルチキャンパス」をつくり、リアルとバーチャルを組みあせたニューノーマル時代のトランスボーダーな共創のモデルを構築します。

今年3月には海外キャンパスをノースカロライナ州立大学に設置しました。この取組に基づく拠点化の第1号で、ノースカロライナ州立大学を戦略的パートナー大学として、学生交流や共同研究を展開していきます。

自由闊達な名古屋大学で「勇気ある知識人」を目指そう

名古屋大学ではダイバーシティ（多様性）の推進を重要課題に掲げており、入試にもそれが如実に表れています。23年度入試（23年4月入学）で工学部の学校推薦型選抜に「女子枠」を設けたのに続き、25年度入試では、理学部で名古屋大学として初めてとなる総合型選抜（旧AO入試）[4]を実施します。

杉山総長は「名古屋大学の学術憲章には、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる、とあります。勇気とはチャレンジする精神です。失敗しても決してめげず、社会のあらゆる場所で活躍できる知識人を育てることが本学の基本理念です。名古屋大学で、最新の学びの場所とコンテンツを得て、勇気ある知識人になりませんか。

また、名古屋大学はさまざまな研究テーマで社会変革に取り組んでいます。自主的に自由闊達に、自分を成長させたいと思っている人は、ぜひ名古屋大学に来て未来を創る人材に育ってほしいと思います」と受験生にメッセージを送っています。

東海機構プラットフォーム（仮称）

多様な人々や、多様な文化や価値観を受け入れる寛容性に富んだプラットフォームを創造することで、それぞれの多様なワタクシが持続可能な未来につながる自分のやりたいことを見つけ出し、**それらが重なりあう**ことでともに生きて行くための新たな価値観のもとに、クリエイティブな人材が集まる磁場**「広場＝みんなのコモンズ」**を私たちは志し、ここを新たな価値を創造する場とします。

（1）勇気ある知識人

勇気ある知識人とは「社会の担い手であることを自覚し、議論を通じて社会を改善し、存続させることを自らの責務として引き受け、それをうまく成し遂げられる」存在のことを指す。責任感をもって社会に貢献しようとする高い志とグローバルな視野を備え、幅広い教養と高い専門性を身につけ、人々の幸福や持続可能な社会の発展を妨げる諸問題の解決に積極的に寄与できる人材とも言える。そのために必要な素養、能力を「教養」と呼んでいる。理想的な教養教育は真の意味での「エリート教育」でもある。

（2）全学教育科目

すべての学生が専門分野によらず共通に身につけるべき基礎的素養（汎用力・課題発見／解決力）を育む「共通基礎科目」、専門分野を学ぶ基礎となる最も基礎的な知識と技能を身につける「分野別基礎科目」、人類社会の問題解決に資するため異分野・異文化に対する開かれた態度や分野を超えた幅広い知識への関心を身につける「教養科目」からなる。共通基礎科目には英語、初修外国語などのほか、文系・理系を問わずすべての学生が学ぶ「データ科学科目」が含まれる。

（3）戦略的パートナー大学

名古屋大学の国際的な教育・研究力を強化し、国際プレゼンスを向上させるため、組織的に深く取り組む双方向の連携活動を推進する海外の有力大学を指す。名古屋大学の「リアルなキャンパス」を現地に設置し、将来的には戦略的パートナー大学のリアルなキャンパスを名古屋大学に設置する。キャンパス事務所は、海外拠点としての役割も担う。

（4）総合型選抜（旧AO入試）

大学入学共通テストを課す総合型選抜を数理学科、物理学科、地球惑星科学科で、大学入学共通テストを課さない総合型選抜を化学科、生命理学科で実施する。自然界を貫く真理の探究に挑むため、総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち、チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた創造力をもつ人を求める。